

導入科目

メディア表現基礎1(導入・紹介)

Media Creation Foundations 1 (Introduction)

担当: 小林昌廣・吉田茂樹・鈴木宣也

単位: 2単位 履修対象: 1年 教室: ギャラリー1/2(C311/C312)

学期: 前期(4月) 実施方法: 対面(金曜午後の成果発表のみハイブリッド)

科目のねらい・特色

IAMASの特徴でもある横断的・学際的な知性と実践力を身につけるための最初の実習科目です。一人ひとりの「過去・現在・未来」をさまざまな形でプレゼンテーションすることをおこないます。いままで何をしてきたか、IAMASで何をしたいのか、そして将来は…。反省と現状とビジョンを「壁面」を使って表現し、また学生相互のディスカッション、教員からの助言などを参考にして「壁面」の世界をより確実なものに近づけます。自分たちのいままでの「仕事」をどう整理して言語化できるのか、また「現在の自分」をどのように表現できるのか、そして「未来の自分」をどのように構想できるのか。1週間を通して「自分はなぜIAMASに来たのか」という問いについての答えの可能性を壁に向かって模索します。

到達目標

IAMASの多様な学生や教員がそれぞれどのような観点や目的を持って活動を行っているかを知り、今後のプロジェクト活動や自らの研究活動の幅を広げる一助となるようにします。また、成果物や活動内容を伝える際に、同じものであっても状況に応じて適切や形や方法があることを知ったうえで、新しい形の伝達の提案ができるようにします。効果的な分析方法、他者と対話するための共通言語、整理し伝えるためのプレゼンテーション力などの獲得を目標とします。

講義形態

オリエンテーション、レクチャー、プレゼンテーション、ディスカッション

講義計画・項目

1 オリエンテーション

2 他己紹介・課題説明・テーマに従った文献、レファンレンス紹介

4-8 課題に関するレクチャー・調査／分析のための諸手法紹介

9-10 課題に関するディスカッション／課題に関するアドバイス

11-12 課題に関するプレゼンテーション準備・調査／分析のためのアプローチ

13-15 課題に関するプレゼンテーション、質疑、まとめ

教科書・参考書等

授業のなかで紹介します。

評価方法

種別	割合	備考
課題	30%	プレゼンテーションなどの能力

日常点	70%	授業への積極的な参加度
-----	-----	-------------

メディア表現基礎2(制作・展示) Media Creation Foundations 2 (Create and Exhibit)

担当: 桑久保亮太・松井 茂・吉田茂樹

単位: 2単位 履修対象: 1年 教室: ホールA(C404)他

学期: 前期(4月) 実施方法: 対面とオンライン複合

科目のねらい・特色

この授業では、メディアと表現がどのように結びついているのかを学びます。

メディア技術はさまざまな制約を克服し、より自由な伝達を実現しようと発達してきました。映像や音声の記録メディアは事物をより鮮明に記録し、伝送技術はより多くの情報をより遠くより早く伝えることを可能にしてきました。

それでも私たちはしばしばコミュニケーションや表現の手段が制限されている状況に見舞われ、不自由さを嘆くことがあります。では、逆に制約のない状況とはどんなものでしょうか。完全なメディアが実現すれば、どんなコミュニケーションが可能になるのでしょうか。そもそも、そのような状況が可能なのでしょうか。

昨今のテレ・コミュニケーションの不備を突くとき、私たちはつい対面の「生のコミュニケーション」に理想的な基準を求めてしまいます。しかし、振り返ってみれば「生のコミュニケーション」の中にもさまざまな制約や暗黙の了解があり、その枠組みこそが対話を成立させてきたのです。私たちが人為的な代替現実と接する機会が増えたことで、従来の現実と潜むメディア性に気付かされることも多くなったのではないのでしょうか。

この授業では、「メディアはメッセージである」というマクルーハンのテーゼを、表現者として解釈していきます。選択したメディアがすでに意味を帯びているということではなく、与えられた条件にどう対処しているのかという態度が表現される場としてメディアを捉えます。そしてその視座に立てば、メディアの制約は表現の糧になりこそすれ足枷にはならないということも理解されると期待します。

授業はいくつかの制作・展示・解釈を行う試行的な演習と、各担当教員のレクチャー、グループディスカッションで構成されます。

到達目標

講義と演習を通じて、所与の手段を自ら読み替える態度を養い、メディアと表現の結びつきを見出す能力を身につけます。

講義形態

講義・演習

講義計画・項目

1日目 導入(授業の全体説明)

講義1

グループディスカッション

制作

2日目 制作と実験

講義2

3日目 講義3

作品制作

4日目 展示、解釈

ディスカッション

評価方法

種別	割合	備考
課題	40%	課題への取り組み
日常点	40%	積極性 協働性
レポート	20%	

メディア表現基礎3(思索・講義) Media Creation Foundations 3 (Thoughts and Lectures)

担当: 山田晃嗣・小林孝浩・桑久保亮太・全教員

単位: 2単位 履修対象: 1年 教室: オンライン

学期: 前期(4月)実施方法: オンライン

科目のねらい・特色

プロジェクト科目と特別研究科目で行う実践的かつ専門的研究・制作に対応し、高度なメディア表現に必要な知識や技能を身に付けるための6つのメディア表現特論について、講義概要を紹介します。講義の中で特徴的な内容を紹介するとともに、質疑応答等の時間を設けて不明な点の解消を目指します。

また、この講義では専門科目を担当する教員だけではなく、本学に所属する専任教員全員の専門や活動の紹介も行います。専門科目の選定だけではなく、プロジェクトや主査副査の選定の参考となる内容を目指します。

メディア表現特論は、表現、設計と、情報・メディア、身体・環境、科学・社会の2X3のマトリックスとして構成され、実際の講義は後期に開催されます。

	情報・メディア	身体・環境	科学・社会
表現	メディア表現特論A	メディア表現特論B	メディア表現特論C
設計	メディア表現特論D	メディア表現特論E	メディア表現特論F

到達目標

6つのメディア表現特論の概要を理解し、制作方針や研究の内容や目的に応じて必要となる科目を見極め、より深く考察することを目標とします。また、各教員による専門の紹介を通じて幅広い専門についても理解することを目標とします。

制作や研究に直接関係しないと思われる科目であっても、取り扱う領域や基本的な考え方を理解することが求められます。

講義形態

講義・議論

講義計画・項目

- 設計系教員による専門の紹介
- メディア表現特論A(表現×情報・メディア)担当教員による専門の紹介
- メディア表現特論A(表現×情報・メディア)の講義
- メディア表現特論D(設計×情報・メディア)担当教員による専門の紹介
- メディア表現特論D(設計×情報・メディア)の講義
- ディスカッション
- 表現系教員による専門の紹介

- メディア表現特論C(表現×科学・社会)担当教員による専門の紹介
- メディア表現特論C(表現×科学・社会)の講義
- メディア表現特論F(設計×科学・社会)担当教員による専門の紹介
- メディア表現特論F(設計×科学・社会)の講義
- ディスカッション

- 設計系教員による専門の紹介
- メディア表現特論B(表現×身体・環境)担当教員による専門の紹介
- メディア表現特論B(表現×身体・環境)の講義
- メディア表現特論E(設計×身体・環境)担当教員による専門の紹介
- メディア表現特論E(設計×身体・環境)の講義
- ディスカッション

教科書・参考書等

教科書はなし。参考書等は必要に応じて講義中に紹介する。

評価方法

種別	割合	備考
課題	30%	レポート
日常点	70%	授業への積極的な参加度

メディア表現基礎4(創造・記述)

Media Creation Foundations 4 (Creation and Description)

担当: 吉田茂樹・小林孝浩・山田晃嗣・三輪眞弘・伏田昌弘(非常勤)

単位: 2単位 履修対象: 1年 教室: ホールA(C404)他

学期: 前期(5月)

実施方法: 対面とオンラインのハイブリッド

5/16(月) 午後は対面(AR体験。AR装置に造詣があればオンライン見学可)

5/17(火) 対面推奨(ハンズオンの内容に問題がなければオンライン受講可)

5/18(水)~20(金) 対面推奨(グループ作業や課題の内容に問題なければオンライン受講可)

科目のねらい・特色

一昨年からの新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、我々の生活は大きく様変わりしました。IAMASでは、幸いにも発達した情報技術、特にオンライン会議システムを活用することで、教育活動を継続することができています。オンラインツールによって成立する生活の経験から、その利点や問題点を知った上で、もう少し先の世界を思い描いてみます。特に最近では現実世界と仮想世界を融合させる種々の技術を使うことで、様々な可能性が広がっています。

この科目では、そのような情報技術の一端に触れ、その重要性を再認識しつつ、わたしたちの手の届くところに引き寄せることを目的とします。技術をただ学ぶだけではなく、課題に基づいた制作を行い、また、それについて考え、記述し、説明することまでを行います。

到達目標

講義や演習を通じて、情報技術の基本を習得します。制作物に関する記述を通じて、制作意図などについて説明する能力を身につけます。

講義形態

演習、レポート等

講義計画・項目

- ・導入(14コマ:課題の提示、関連する技術や話題の提供)
- ・構想(4コマ:課題に対するプランニング、ディスカッション)
- ・制作(4コマ:プロトタイプの実装、検証)
- ・記述(4コマ:企画や実装についてのまとめ、発表準備)
- ・発表(4コマ:発表、講評)

教科書・参考書等

必要に応じて随時配付、指定します。

評価方法

種別	割合	備考
----	----	----

課題	50%	課題への取り組みを評価します
日常点	50%	理解度が基準点に達することが要件です